

市内外が「ワンチーム」でインバウンド受け入れ

岩手県北西部の八幡平市（はちまんたいし）は秋田、青森両県と接し、北東北3県のちょうど真ん中に位置する。人口は約2万5千人。市を代表する山の八幡平（標高1613[㍎]）や本県最高峰の岩手山（同2038[㍎]）は十和田八幡平国立公園八幡平地域に指定され、四季折々の景色やスノーリゾート、豊富な地熱を生かした産業が特徴だ。

観光は市内経済を支える主要産業の一つだ。市商工観光課によると2018年度の訪日外国人客の入り込み数は約8万千人。「安比高原」（あっぴこうげん）のブランドで知られるスキー場を中心に冬場の需要が大きい。22年北京冬季五輪開催を追い風に中国からのスキー客受け入れが急速に進む。

近年は5～6月にかけて、八幡平山頂付近にある沼が瞳のように雪解けする様子から「八幡平ドラゴンアイ」として注目を集める。国内に加えアジア圏の旅行客にも好評で春先の新たな観光の「目玉」として注目を集める。

19年には安比地域に英国の名門私立学校・ハロウスクールと提携したインターナショナルスクールが開設されることが発表された。22年度の開校に向け準備が進んでおり、国際化の流れは今後も加速する。

インバウンドへの対応や態勢整備に向けた動きを加速させるべく、18年5月には市内初の観光地域づくり推進法人、八幡平DMOが発足。インバウンド向けの商品造成やPR活動、調査分析を展開する。良質なパウダースノーや地酒、スローライフなどを切り口に、欧米・豪州旅行客をターゲットにしたモニターツアーを行ったり、地元のおもてなしに向けた勉強会などを企画。北東北の他のDMOとの連携や情報収集も進めており、受け入れに向けた土台固めに取り組んでいる。

地元の企業や観光協会との連携、収益性向上など今後の課題も見えてきた。市内外の関係者と手を取り合い、「ワンチーム」の取り組みに期待したい。

株式会社岩手日報社 八幡平支局長 及川慶修



市は2018年5月に観光地域づくり推進法人「八幡平DMO」を発足させ、インバウンドへの対応や態勢整備に向けた動きを加速させている。写真右は、八幡平山頂付近にある沼。瞳のように雪解けする様子から「八幡平ドラゴンアイ」として注目を集めている。